

高度ポリテクセンター事業概要

－ <http://www.apc.ehdo.go.jp> －

1. はじめに

技術革新の進展に伴って、産業構造が急激に変化し、労働者に求められる職業能力も大きく変化してきました。このため、産業界の第一線で活躍している在職中堅技術者に対する、専門的知識や高度な技術を習得するための先導的な公共職業能力開発施設として、高度職業能力開発促進センター（愛称：高度ポリテクセンター、以下「センター」という）が、雇用・能力開発機構（旧雇用促進事業団）によって、平成2年6月、千葉市の幕張新都心に設立されました。

当センターでは、優れた訓練環境のもと、少人数を対象として、講義と実習を融合した実践的かつ先導的な技術セミナーを多数開講しています。

また、事業主・団体等に対し、教育訓練のための施設の提供、講師の派遣、その他職業能力開発の実施に関する各種の相談援助や情報の提供も行っています。

2. 施設概要

2.1 アクセス

当センターは幕張メッセで知られる幕張新都心の文教地区に位置し、交通アクセスは、東京駅から当センターの最寄り駅である海浜幕張駅までJR京葉線（快速）で約30分、海浜幕張駅から徒歩10分という好位置にあります。平成元年10月に幕張メッセがオープンして以来、ビル、ホテル、住宅、学校が建ち並



写真1 高度職業能力開発促進センター全景

ぶなか国際会議や文化・交流活動の展開など複合機能の集積が進み、日々約11万人が活動する街となっています。

2.2 施設

当センターは鉄筋コンクリート7階建ての本館棟と実習棟等が配置されています。本館棟には、コンピュータ室、資料室、視聴覚室、実習室等が配置され、各実習棟には最新の機器等が整備されています。

2.3 沿革

平成2年に高度技能開発センターとして発足し、今年で13年目を迎えた当センターの沿革は以下のとおりとなっています。

- 平成2年6月 旧中央技能開発センターが改組されたことに伴い、高度技能開発センターとして発足し、同年10月から業務を開始する。
- 平成5年4月 職業能力開発促進法の一部改正に伴い、高度職業能力開発促進センターとなる。
- 平成11年10月 雇用・能力開発機構法の施行に伴

い、雇用・能力開発機構が雇用促進事業団から高度職業能力開発促進センターを継承する。

2.4 近隣紹介

幕張新都心は、次の4エリアに分けられます。

① ビジネスエリア

300社を超える企業が活動し、約4万人が就業しています。

② メインステージ

幕張メッセは、日本で初めての本格的なコンベンション施設です。

③ ふれあいのスペース

ホテル、ショッピング、アミューズメント、スポーツ・レジャーなど新都心のにぎわいは高まっています。

④ 文教地区

幕張新都心の中で早くから整備が進んでいる地区で、当センター近隣には海外職業訓練協会(OVTA)、アジア経済研究所など6つの研修・研究施設等が立地し、さらに放送大学等の3つの大学、4つの高等学校があります。



写真2 幕張新都心

3. 事業概要

3.1 基本方針

業務開始から12年目を迎えた昨年4月1日には、高度職業能力開発促進センター運営要領が全面改定されました。新たな業務運営の基本方針は、「全国の職業能力開発施設の実施する職業能力開発に関する先導的役割を担う施設として、産業界の技能・技術の動向に対して高度・先導的訓練コースの企画・開発、実施(検証)および普及を行うこと」となっています。また、業務内容には「職業訓練の実施に関する調査研究」が新たに付与されました。

これを受け、当センターは経済社会状況を踏まえ、先導的役割を担う施設として、①高度な技能・技術に関する能力開発セミナーの企画・開発および実施、②職業能力開発および向上に関する情報収集、調査・研究開発、③職業能力開発および向上の促進に関する情報発信および相談援助、④離職者に対する先導的訓練コースの企画・開発・試行および普及、⑤リーダー性を備えた職業訓練指導員の育成などの事業運営に携わっています。

図1は当センターにおける能力開発・人材育成支援の取り組み概念図です。当センターでは、産業界のコア人材、企画開発型人材の育成を支援するべく、豊富なサービスメニューを準備しています。

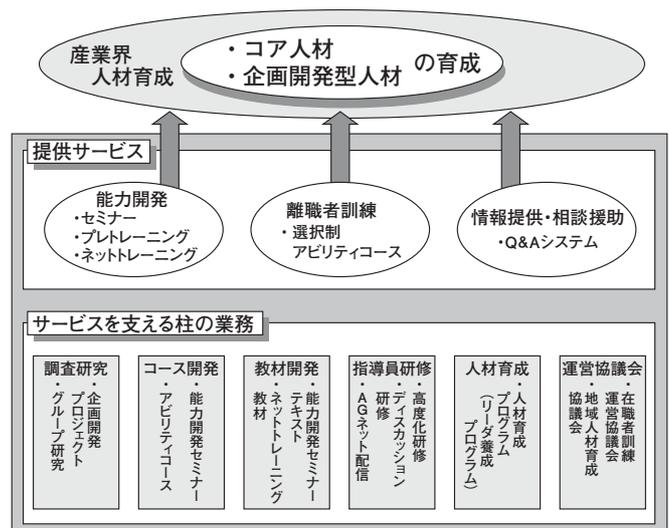


図1 能力開発・人材育成支援

3.2 在職者訓練（能力開発セミナー）

当センターは、広範かつ深い視点から先端技術の動向や産業界のニーズを把握しながら広く英知を集結して、これらを実際の訓練に具体化し実践することが求められています。

このため、当センターで実施する能力開発セミナーは、技術革新が顕著な現況において、常に見直しを行い、内容の一層の充実を図っています。さらに、多様なニーズに対応できる能力開発セミナーを企画・開発し、対象分野の発展に資するよう日々努めています。

能力開発セミナーの実施に当たっては、その企画意図に沿った産業界の第一線の技術者や大学教授などを部外講師として委嘱し、企業のコアとなる人材育成、企画開発型人材育成に役立つ実践的・先導的なセミナー展開を心掛けています。また、部内講師は、講義や実習の担当のほか、部外講師の選定、機器のメンテナンス、綿密な打ち合わせによる能力開発セミナーの企画立案、教材開発などを行っています。

3.3 情報発信・調査・研究

当センターでは、調査研究事業の一環として、より効果的な訓練の提供を目的にeラーニングシステムを基盤とした、「トリプルe ネット構想」(図2)を提案しています。

トリプルe ネット構想とは、eトレーニング、eサポート、eプロポーザルの3つのジャンルからなり、それぞれにサービスプログラムが準備されています。

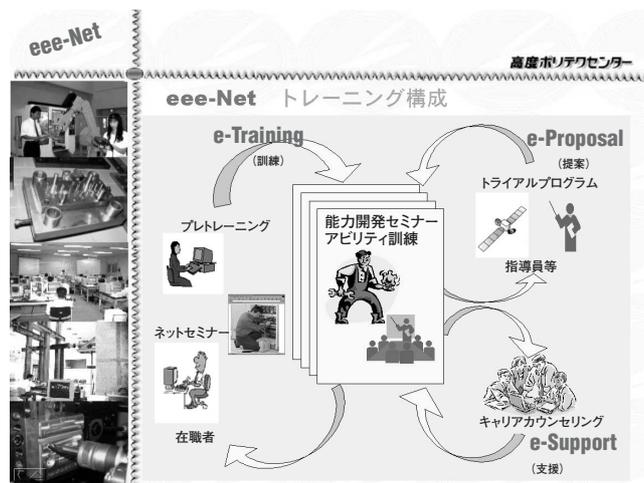


図2 トリプルe ネットの構成

eトレーニングは、ネットトレーニング、セミナー受講前のスキルチェック等を目的としたプレトレーニングなどのプログラムから構成されています。

eサポートは将来、相談援助機能、キャリア形成事業の支援などを目的に設定されています。現段階ではセミナーやアビリティコースの全般的な質問に限定し、利用者に対して一次回答を即答するシステムとして、Q&Aシステムを試行的に提供しています。

eプロポーザルは、当センターが企画・実施している先導的な訓練に関するカリキュラム、教材、技術動向などの情報提供を目的に行っています。



図3 トリプルe ネットのイメージキャラクター

3.4 離職者訓練（アビリティコース）

離職者訓練については、平成7年度からその高度化を担うべく「先導的な離職者訓練（情報通信技術科）」として実施してきました。当センターで実施する離職者訓練はどうあるべきかを常に議論しながら、平成14年度には求職と求人に関するミスマッチを解消する目的で、選択制訓練（コラボレーション訓練）に取り組んでいます。

4. むすび

今回の特集号では、当センターが取り組んでいる日々の営みを「お客様に対する提供サービス」、「先導的公共職業能力開発施設としての役割」の2つの観点から紹介させていただきます。本号を通して、当センターが実施している業務のさらなるご理解をいただければ幸いです。